

第35回 こうさい療育・支援セミナー

「家族支援」

弘済学園における取り組み

公益財団法人 鉄道弘済会
総合福祉センター弘済学園

藤曲俊博 鈴木耕平 仙波武史

はじめに

弘済学園では現在、4歳から32歳までの方、約100名が入所を利用しています。その多くが、家庭で課題行動を見せ、ご家族もそうした我が子と上手く向き合えずに疲弊し、家庭生活が立ち行かなくなった結果、入所の利用に至っています。

私たちは児童施設の役割として、本人支援に加えて「家族支援」も欠かせないと考えています。

当園では、お子さんとご家族のつながりを保ち、ご家族が元気を取り戻せるような様々な取り組みや、我が子への正しい理解から家族再統合へと発展させる支援を行っています。

そうした当園の実践を報告し、児童期における家族支援のあり方について考える機会にしていきたいと思います。

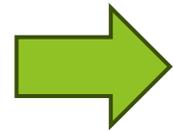
I. 弘済学園における行事など 家族支援プログラムの紹介

I. 弘済学園における行事など家族支援プログラムの紹介

1. 毎週末の面会
2. 長期帰省
3. 新入園親教室
4. 親実習
5. 親教室
6. 父母の会
7. 面談

1. 毎週末の面会

- ・ 毎週末の土曜日、日曜日にご家族とお子さんとの面会
- ・ 午後の時間帯に弘済学園の園周・公園への散歩、グラウンドでの遊具遊び、コンビニでの買い物、マイクロバスでの外出
- ・ お子さんの学園生活での様子やエピソードを共有
- ・ お子さんとの過ごしの課題をアドバイス



気持ちよく出会い、気持ちよく別れる

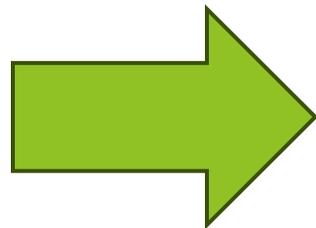
2.長期帰省

- ・年に5回、計8週間の帰省
(3月休み/8月休み/12月休み 各2週間
5月休み/10月休み 各1週間)
- ・成長著しい時期、家庭とのつながりが大切
- ・帰省を繰り返すことで成長、変化を実感

家庭からの記録は、子どもと家族の成長記録

3.新入園親教室

- ・ 新入園の保護者を対象
- ・ 園内の見学（日中活動・昼食・生活環境）
- ・ 管理職による講義
- ・ 障害への学びや理解



- ・ 我が子の将来を描く
- ・ 保護者同士の交流
- ・ 職員との情報交換の場

4.親実習

〈親実習の進め方〉

- ・ 事前に実習視点用紙を提出
- ・ 担任と視点を共有
- ・ 日帰り・宿泊でクラス活動に同行
- ・ 保護者が子どもの日常を見る機会
- ・ 子どもの新たな一面に気づく、関わりのヒントを得る
- ・ 実習後に面談・振り返り

実習ノートに記録（成長の記録）

5.親教室

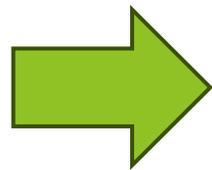
〈概要〉

- ・年に一度の開催
- ・クラス単位で実施
- ・利用者家族・担任・管理職が一堂に会する場
- ・我が子の日常の様子や成長を知る機会
- ・家庭で過ごすヒントを得る機会

5.親教室

〈進め方〉

- ・ クラスの一日の流れを映像で共有
- ・ 家族一人ひとりが感想・思いを語る
- ・ 成長や課題を全員で確認



- ・ 家族同士の共感が生まれる
- ・ 横のつながりが深まる支援の場

6. 父母の会

父母の会の概要

- ・ ほぼ毎月開催
- ・ 年4回は午前中に約1時間の「日課参観」を実施
- ・ 学校の授業参観のような位置づけ

参観内容

- ・ 室内作業（普段の取り組み）
- ・ 体育（夏場はプール）
- ・ 音楽プログラム（学齡児中心のクラス）

6.父母の会

子どもにとって

- ・ 家族が見ていることで普段の姿が出ない場面もある
- ・ その様子も含めて成長の一部

家族にとって

- ・ 定期的・継続的に観ることで



成長に気づく機会

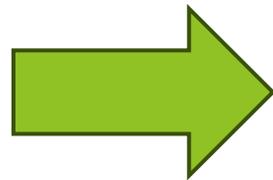
6. 父母の会

参観後の取り組み

- ・ 日課クラス懇談会
- ・ 生活クラス懇談会

懇談会の目的

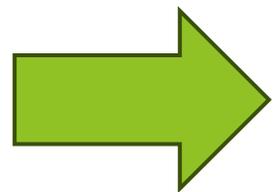
- ・ ほかの保護者の大変さを知る



保護者同士が支え合う関係づくり

7.面 談

- ・ 長期帰省前後・親実習後に実施
- ・ 成長・変化・課題へのアプローチの共有
- ・ 担任と家族での振り返り
- ・ 課題・成長・今後の方向性を確認



- ・ 家族の自信
- ・ 前向きな姿へ

Ⅱ. 家族支援で大切にしていること

1. 家族との信頼関係を構築する

(1) 入所前のご家族の心情を承知する

- ・ 不安・心配の中での診断→告知
- ・ 苦悩・葛藤・絶望の心理状態
- ・ 子どもに対する自責の念
- ・ 預けたことへの期待感



- ・ 複雑な心情を理解
- ・ 否定せずに受け止める

1. 家族との信頼関係を構築する

(2) まずは傾聴から始める

- ・ 親和的な関わり
- ・ 否定的な返答はしない
- ・ すべての話を傾聴し、表情や声のトーンなどから察する
- ・ 聞いてもらえる安心感



「安心できる相手」
「安心できる場所」

Ⅱ. 家族支援で大切にしていること

1. ご家族との信頼関係を構築する

(3) お子さんの変化を共有する

	学園	家庭
グループダイナミクス	○	×
構造化された環境	○	△
毎日の繰り返し	○	×
	<ul style="list-style-type: none">・理解・見通し・安心感・積極的	<ul style="list-style-type: none">・分かりにくい・混乱・難しさ

分かりやすさ

見通し

行動の安定

良い姿への
気づき

変化を実感

2. 傾聴のスタンスからアドバイスへ

(1) タイミングの捉え

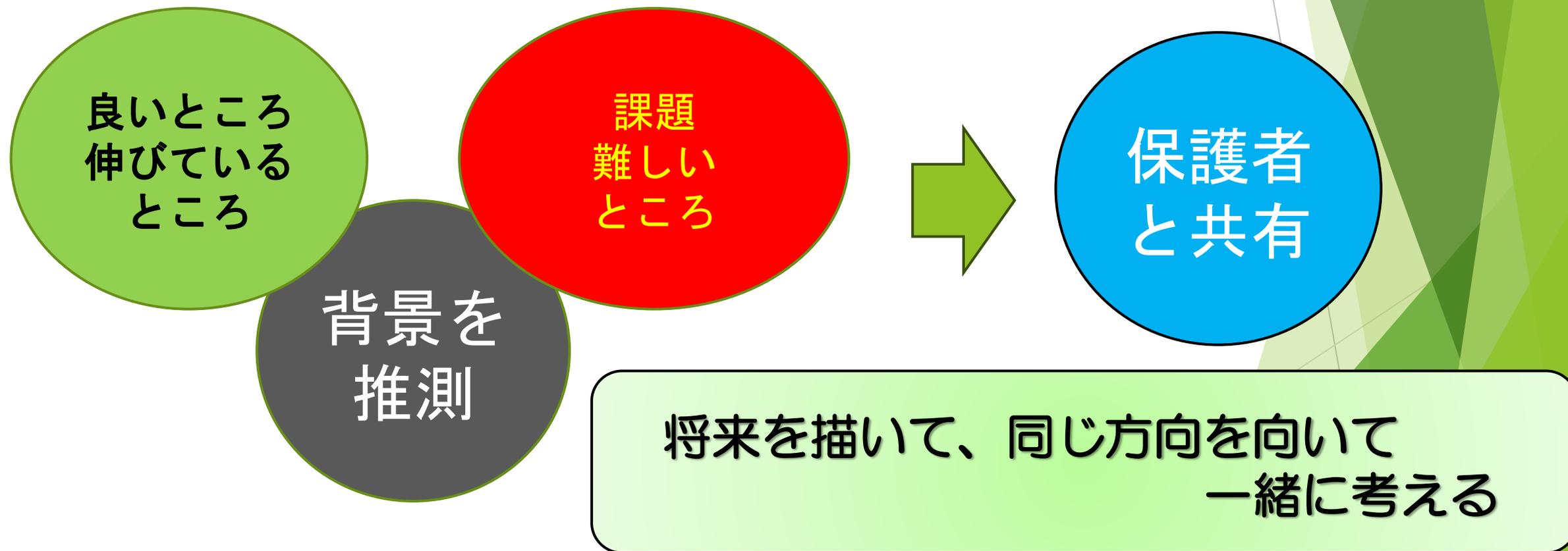
- ・ 職員との信頼関係が構築されていることが前提
- ・ 現状に合ったアドバイスでないと、一方的、または家族の負担
- ・ 家族が職員の言葉を「受け取る・受け止められる」心情の変化
→例えば、気持ちを言葉で整理する
問題、課題から良い面に着目できる など



家族の気持ちにゆとりが出てくると、
アドバイスを求めてくることも

2. 傾聴のスタンスからアドバイスへ

(2) お子さんの今を共通認識する



3. 保護者同士のつながり

保護者同士のつながり

職員とのつながり

家族の支え

軸の異なるつながりを作ることも家族支援の一つの要素

3. 保護者同士のつながり

つながりを作るために

- ・ 父母の会・親教室・夏まつり・運動会・クリスマス会等
- ・ 保護者同士の言葉による共感やアドバイス

こうした保護者同士の
つながりも心強さや力になる

Ⅲ. 事例検討

1.対象の概要

対象：Aさん

- ・ 8歳 男子
- ・ 2024年10月21日 集中療育にて入所
- ・ 重度知的障害/自閉症・AD/HD
- ・ 家族構成
父・母・姉・Aさんの4人家族

1.対象の概要

Aさんの性格・特性

- ・ 明るく人懐っこい性格
- ・ 対人意識が高いが、顕示的な行動に表れやすい
- ・ 見通しが持てないと不安が高まる
- ・ 不安が高まると大声で泣く、人を叩く、つねるなどの行動につながりやすい
- ・ 同一性保持が強い
⇒人との関わり方やスケジュールなどに固執しやすい
- ・ 思い通りにならないと混乱

周囲が思い通りに応じてくれることで誤学習



固執性が強化される

2.入所に至った経緯

入所前の生活状況

- ・ 幼少期より様々な行動が目立つ
 - ⇒ ・ 布団で排尿
 - ・ トイレの水で遊ぶ
 - ・ 脱走
- ・ 外出時も目が離せない状況
- ・ 水への強い関心
 - ⇒ 夏は一日中プールに入ることも

家族は常に対応に追われ、疲弊

2.入所に至った経緯

入所に至った経緯

- 支援学校に通う友達の母親、先生、
放課後等デイサービスから紹介
⇒弘済学園の集中療育
- 両親の思い
⇒「この状況を何とかしたい」
「本人のためになるなら」
「我慢している姉の気持ちも支えたい」
⇒入所に迷いはなかった

2.導入期
(集中療育 2024.10.21~)

(1) 第一期（入所一年目）

1) 学園での様子（2024年10月～）

Aさんの様子

- ・ 担任の手を取る
- ・ 膝に座る
- ・ くすぐり、抱っこを求める
- ・ 初対面でも人見知りをせずに
関わられる

⇒愛されて育ってきた

課題となる行動

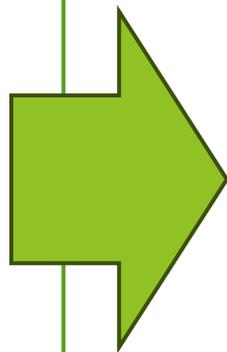
- ・ 待てない、着席ができない
- ・ クラスから抜け出す
- ・ 耐性が弱く、泣き・叩く・
つねる行動に発展しやすい

⇒見通しが持てない不安

2) 保護者との共有

Aさんの状態像

- ・ 初対面でも人見知りをせずに関われる
- ・ 見通しが持てない不安
→ 待てない、着席できない
クラスから抜け出す
耐性が弱く泣き・叩く・
つねるといった行動に
発展



担任の支援

- ・ 親和的、肯定的な関わり
- ・ 写真カードの活用
→ その通りに進む経験を積む
→ 見通しを持ち始め、
落ち着いて待てる場面が増加
- ・ 環境設定
→ 座席を担任の傍へ
- ・ 行動に過剰反応しない
→ 頻度は徐々に減少

日常のアプローチと結果を
保護者と共有

3) 12月帰省の様子

Aさんの様子

- ・生活面の変化
 - ・衣類の選択肢が増える
 - ・偏食の減少
 - ・服薬が容易に
 - ・名前を呼ばれると戻ってくる

両親の手ごたえ

- ・短期間で改善が見られる
- ・「普通に過ごせる」時間を実感

忘れていた当たり前の暮らしを思い出せた喜びを感じた帰省となる

4) 3月帰省の様子

Aさんの様子

- ・ 入園後2回目の帰省
- ・ 放課後等デイサービスを併用
- ・ 祖母宅での食事
→荒れる場面はあるが切り替えが可能
- ・ 家庭でも落ち着いて過ごせる
- ・ 外出（美容院・歯科）も安定
- ・ 朝の目覚め時
→YouTubeの活用

両親の手ごたえ

- ・ 学園生活への適応
- ・ 家庭生活の安定

- ・ このまま1年で終わるのはもったいない
- ・ 集中療育の延長を希望

3.第二期（入所半年後～）

【両親への働きかけ】

①来園時の支援

- 1) 週末の来園
- 2) 親実習
- 3) 親教室
- 4) 行事

②長期休暇の支援

- ・5月、8月、10月、12月

【両親への働きかけ】

①来園時の支援

1) 週末の来園時の家族支援

➤ 両親の話を傾聴

- ・ Aさんの性格、好きなこと
- ・ 昨年度のAさんの様子
- ・ Aさんの課題とそれに対する悩み

⇒積極的にAさんのお話を伺いながら傾聴に努める

安心感

1) 週末の来園時の家族支援

➤ 学園でのエピソードを共有

- ・ 人懐っこく関わってくる姿
- ・ ADLなどを頑張る姿
- ・ 担任との関わりで切り替わられた姿

⇒Aさんが頑張っていることを共有

⇒課題となる姿もエピソードを交え共有

⇒切り替わられた姿・その支援方法の共有

信頼感

1) 週末の来園時の家族支援

➤ 休日プログラムへの参加

- ・ 散歩、公園、コンビニ買い物など
- ・ 担任が介在しながら両親とAさんが一緒に参加

⇒両親と穏やかに楽しく参加できることが目的

⇒両親が制止できないときには担任が対応

⇒Aさんへの支援を実際に見ていただく

成功経験

1) 週末の来園時の家族支援

- **Aさんとの過ごしの課題についてアドバイス**
 - ・エピソードを通じた特性の見立て
⇒同一性保持の強さ・構造化の有効性
 - ・休日プログラムでの関わり方を担任がサポート
⇒「約束事」として行動の枠組みの提示
⇒両親と折り合える姿へ

両親主導の関係を築くための機会

2) 親実習での家族支援

- **両親と視点を共有し日常の支援を見学**
 - ・ 構造化された環境・見通しが持てる生活の安心感
 - ・ 担任の性別によって見せる姿の違い
- **面談**
 - ・ Aさんの成長の確認
 - ・ 担任とAさんとの関わりを振り返り、配慮点を共有
 - ・ 担任によっての見せる姿の違い≡父母の間での違い

**家庭でAさんが過ごしやすい環境
Aさんとの関わり方の整理**

3) 親教室での家族支援

- **一日の生活の様子を映像で確認**
 - ・ 構造化された生活の中での様子
 - ・ 両親がいない中で担任と一緒に関わっている様子
- **懇談会**
 - ・ クラス全体の成長・課題の共有
 - ・ 我が子の「今」を担任、管理職、ご家族同士で共有

保護者間のつながりの深まり

4) 行事での家族支援

➤ 行事

- ・ 夏まつり、運動会、クリスマス会など
- ・ 担任が介在しつつ両親と参加

⇒ 集団を手がかりに担任、両親と参加できる姿

⇒ 運動会は落ち着いて参加できたことがなかった

不安になっても担任との関わりで切り替われる姿

人の支えが穏やかな姿につながることを実感

【両親への働きかけ】

②長期休暇の支援

- ・ 帰省時の面接
- ・ 両親の手ごたえ
- ・ 担任より

5月帰省面接時

- ・Aさんの成長面・課題面の共有
- ・母との間で気持ちの切り替えが難しい
⇒父がいる中で母がやり取りをする

Aさんの成長・課題への向き合い方を伝えることで両親を後押し

両親の手ごたえ

- ・食事の偏食が減った
- ・癇癢が起きたときの切り替えが難しかった
- ・今後の帰省について不安感

担任より

- ・成長した姿の振り返り
- ・要求の強まり
⇒学園と家庭との使い分けが顕著に
- ★両親の不安への共感と受容
- ★担任と両親との視点のすり合わせ

8月帰省面接時

- ・プールに入る際に水着の着用を促す ⇒ 約束事の提示

Aさんに対して両親が主導で関われる具体的な方法の提案

両親の手ごたえ

- ・プールでの約束事が守れてよかった
- ・言うことを聞いたのは前半だけで、後半は食事と遊びのメリハリがつかない
- ・入所前の本人に戻ってしまった印象

担任より

- ・折り合えたところは評価
⇒関係性向上の糸口
- ・癩癩の強さ
⇒環境設定・服薬調整の提案
- ★家庭の環境を整理
⇒やり取りしやすくなる方法を模索

10月帰省面接時

- ・遊ぶ部屋と食事を摂るリビングとを分断（居室の構造化）
- ・無理のない範囲で約束事を守れるやり取りをする

ご家庭で折り合いやすくなる環境的・对人的配慮の確認

両親の手ごたえ

- ・環境を整えたことで切り替えやすかった
- ・就床までの動きを学園と同じ動線とすることで切り替わりが良かった
- ・一週間だから何とか保てた

担任より

- ・環境設定による遊びからの切り替わりやすさを評価
 - ・学園と同じ動線が安心
⇒同一性保持の特性の強さを確認
 - ・環境設定ができない時のやり取りの難しさ
- ★服薬調整の必要性を確認

1 2月帰省面接時

- ・服薬調整により学園で両親主導で関わられたイメージをもって帰省に臨む
- ・10月帰省と同様の環境で進める

環境的配慮と服薬調整の相乗効果を期待

両親の手ごたえ

- ・放デイやシッターさんと穏やかに関わる姿 ⇒成長を感じた
- ・両親との間では薬の効果を全く感じられないほど、自己本位さ・癩癪が強い
⇒言いなりになるしかなかった

担任より

- ・2週間頑張ってくださったことへの感謝
 - ・両親と外部(他人)との間での姿の違い
⇒Aさんのご両親に対する決めつけの強さ
- ★家庭復帰に向け、両親との関係性向上について時間をかけて模索していく

4. 考察

—今後の家族支援の方向性—

家族への支援

- ① ご両親との信頼関係を築く
- ② 担任を介した両親主導の関係性の構築
- ③ 信頼関係を軸とした伴走型の支援

家族への支援

【①ご両親との信頼関係を築く】

具体的なエピソードを
交えた成長の様子

**両親の
安心感**
「同じ目線で
話してくれる
存在」

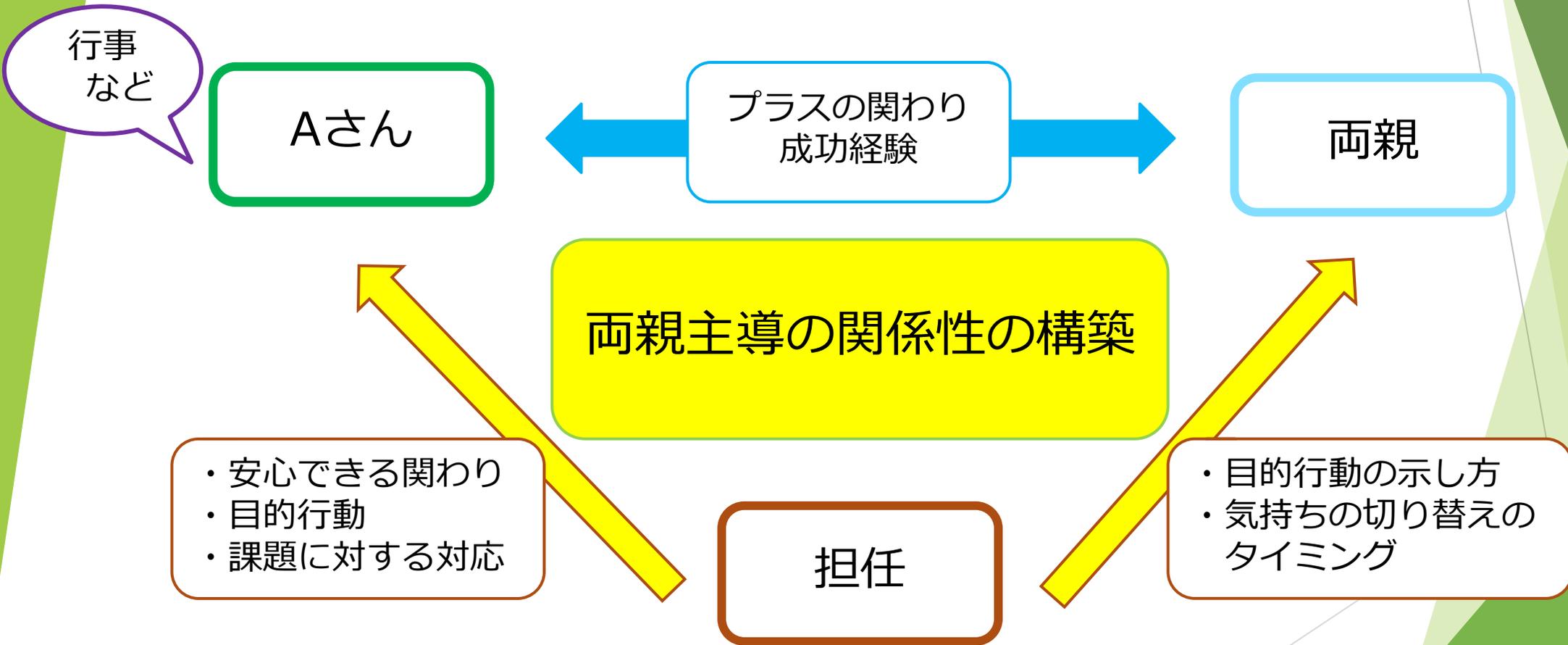
課題行動だけでなく
「なぜそうなったのか」

手ごたえのあった支援から
見えた特性

支援への説得力・信頼関係の構築につながる

家族への支援

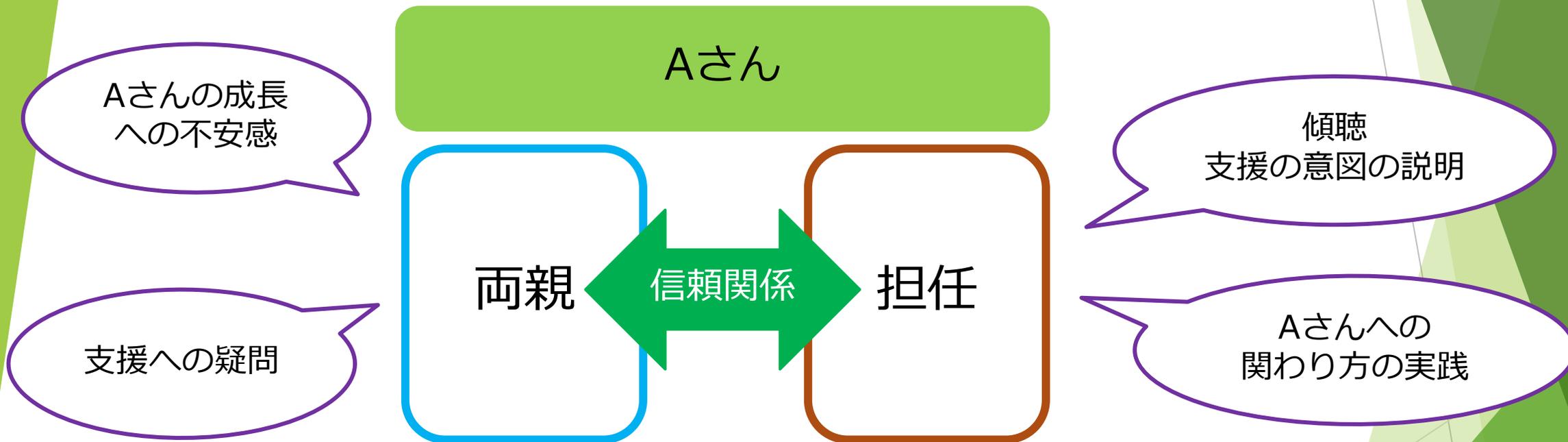
【②担任を介した両親主導の関係性の構築】



4. 考察

家族への支援

【③信頼関係を軸とした伴走型の支援】



両輪でAさんを支える伴走型の支援

家族への支援

【両親の感想】 ①

入園前

- ・ Aさんの「命を守ること」が最優先事項の日々だった
- ・ 多動が顕著で片時も気が休まらなかった
- ・ 待てない、じっとしてられないという本人に合わせた過ごしになることが家族の基本だったからコンビニすら行けなかった
- ・ 毎日どんなに大変でも『Aさんが可愛い』という思いが常に勝っていた

家族への支援

【両親の感想】 ②

親教室・親実習

- ・今年度の初めは、担任が変わってクラスが落ち着かず心配だった
- ・毎週の来園で担任との間で信頼関係を築いている様子がよくわかった
- ・入所前は、本当の悩みは周りに相談ができず、夫婦で悩むばかりだった
- ・入所して職員と一緒に子どもを育ててくれていると感じる
- ・自分たちの大変さに共感してもらえて、孤独を感じない

家族への支援

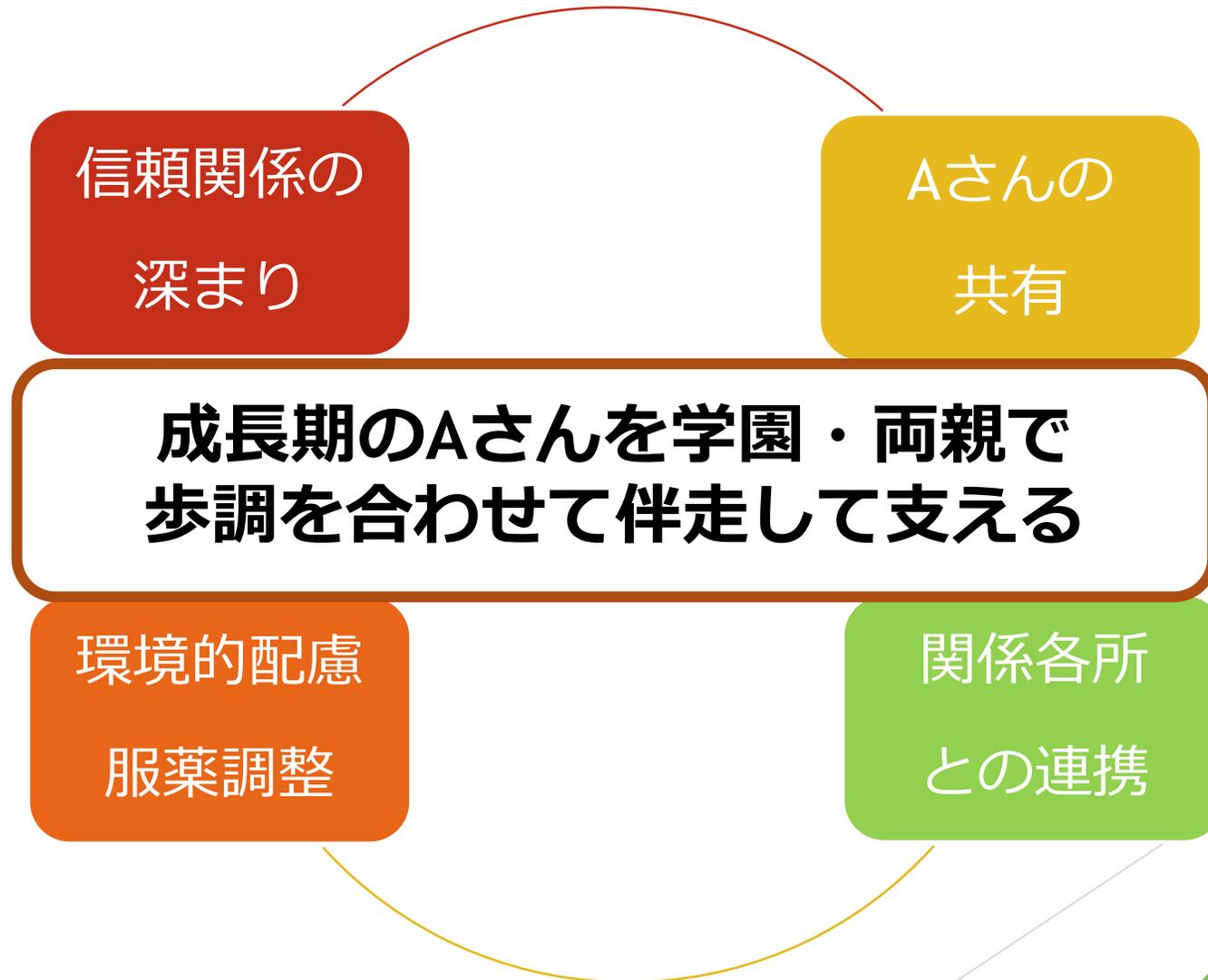
【両親の感想】 ③

行事（夏まつり・運動会・クリスマス会など）

- ・ 初めて集団で運動会に参加できている姿に感動した
- ・ 担任を心の支えにしているのが表情から伝わった
- ・ 日々、色々な時間を過ごしてくれているからこそその姿

日常や行事での姿を通して我が子の成長を実感
⇒我が子に向き合う力の源に

今後の家族支援の方向性



おわりに

- ・ 入所施設は一時的な支援の場
- ・ 目標⇒家族が元気を取り戻し、地域で生活できること
- ・ 施設と家族が両輪となる支援
- ・ 家族関係が脆弱な家庭には行政・関係機関との連携も重要